

# 4年ぶり900円に下落

## メーカーは8月3割減産へ

### 国産針葉樹合板

国産針葉樹合板は約4年ぶりに関東圏で900円（12 $\frac{3}{4}$ 厚3 $\times$ 6判、関東1次問屋着、枚）まで下落した。緊急事態宣言が解除され、流通各社の営業活動が再開されて以降、市中価格は値下がりが続いた。ただ、先週東日本のメーカーが市中価格の引き締めを働き掛けたことで、値動きは一時的に落ち着いている。メーカーの減産は本格化し、5月の生産量は5年ぶりの低水準（21万5600立方尺）。8月は盆休みを絡めて生産量を3割以上減らしていく。

「この1カ月間の値」・ショック直後より早「営業担当者は話す。5下げペースはリーマン」かつた」と大手問屋の「月下旬から徐々に営業

活動が再開され、対面営業の自粛も緩和されたが、需要の回復の遅れや先安観の拡大から販売は伸び悩んだ。需要が伸び悩むなか、6月には四半期決算前の売り上げ確保を求められた商社や大手問屋で現場レベルでの

値下げ販売が広がった。さらに、販売店も値下がりを見据えて早めに在庫を消化しようとして積極的な販売に動いた。特に首都圏では、営業活動の再開がほかの地域よりも遅れたことで短期間のうちに売り上げを確保する必要に迫られ、値下げ幅が大きかった。

本来であれば、四半期決算が終わった7月からこうした値下げ販売は徐々に収まっていた。しかし、6月の急速な値下がりや先安観が強まり、買い控え傾向が一層強まった。さ

らに、プレカット会社など直需向けの注文も減少傾向のため、何とか売り上げを確保しようとして値下げ販売が続いた。しかし、先週東日本のメーカーがこれ以上の安値を容認せず、引き締めを図っていく方針を商社や大手問屋に伝えた。メーカーとしてはここで市中価格の値下げに歯止めを掛けようとして、8月には東西両メーカーとも盆休みに絡めて減産幅を3割まで拡大し、市場の混乱を収める姿勢。

こうしたメーカーの姿勢が示されたことで、流通段階でも様子見となっており、現状値動きは一時的に収まっている。

現在、12 $\frac{3}{4}$ 厚3 $\times$ 6判の市中価格は首都圏で900円（関東1次

 **集成材**  
お問い合わせ下さい  
FSC® C121389 SGEC/31-31-1007 「緑の環境」

**TSC 株式会社 ティ・エス・シー**  
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53  
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349  
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>

問屋着、枚）前後と前月比50円安。ただ、北海道や九州では1000円前後（問屋着、枚）、東北では950円前後（同）など地域によっては小じっかりとした価格も出ており、大都市圏の市中価格が先行して大きく乱れている。

24 $\frac{3}{4}$ 厚3 $\times$ 6判は1850 $\sim$ 1900円（関東1次問屋着、枚、実なし）と同70 $\sim$ 100円安。12 $\frac{3}{4}$ 厚品に引きずられる形で値下がりしたため、市中価格は値幅が大きくなっている。